

# 社 会

(歴史的分野)

発行者			教科書の記号・番号	判型 総ページ数	検定済年
番号	名称	略称			
225	自由社	自由社	歴史 712	A B 変型 312	令和3年

※「発行者 略称」欄にある◆は、「学習者用デジタル教科書」（学校教育法第34条第2項に規定する教材）の発行予定があることを示しています。

## 1 調査の対象となる教科書の冊数と発行者

冊数	発行者の略称
1冊	自由社

## 2 学習指導要領における教科・分野の目標等

### 【社会科の目標】

社会的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の国土と歴史、現代の政治、経済、国際関係等に関して理解するとともに、調査や諸資料から様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり、社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 社会的事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の国土や歴史に対する愛情、国民主権を担う公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、他国や他国の文化を尊重することの大切さについての自覚などを深める。

### 【歴史的分野の目標】

社会的事象の歴史的な見方・考え方を働かせ、課題を追究したり解決したりする活動を通して、広い視野に立ち、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解するとともに、諸資料から歴史に関する様々な情報を効果的に調べまとめる技能を身に付けるようにする。
- (2) 歴史に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し複数の立場や意見を踏まえて公正に選択・判断したりする力、思考・判断したことを説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。
- (3) 歴史に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野にそこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される我が国の歴史に対する愛情、国民としての自覚、国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め、国際協調の精神を養う。

【参考：中学校学習指導要領解説 社会編 「第1章 総説 2 社会科改訂の趣旨及び要点」から抜粋】

### (2) 各分野の改訂の要点

#### 〔歴史的分野〕

歴史的分野における改訂の要点は、主に次の5点である。

#### ア 歴史について考察する力や説明する力の育成の一層の重視

各中項目のイの(ア)に「社会的事象の歴史的な見方・考え方」を踏まえた課題(問い)の設定などに結び付く着目する学習の視点を示し、類似や差異を明確にし、因果関係などで関連付ける等の方法により考察したり、表現したりする学習について示した。

また、各中項目のイの(イ)に、「各時代を大観して、時代の特色を多面的・多角的に考察し、表現」する学習を明示した。平成20年改訂では内容の(1)「歴史のとらえ方」の中項目ウにおいて、「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動を通して、各時代の特色をとらえさせる」と示されてきた。今回の改訂では、中項目ごとにこれらを示し、「まとめ」としての学習を行うことを一層明確にしたものである。

#### イ 歴史的分野の学習の構造化と焦点化

(1)、(2)…の中項目内のアに示した「知識及び技能を身に付ける」学習と、イに示した「思考力、判断力、表現力等を身に付ける」学習との関係や、それらの各事項に示した歴史に関わる個別的な事象同士の関係を明確にするために、学習内容と学習の過程を構造的に示した。歴史的分野における「理解」については、平成20年改訂においても「思考や表現の過程などを踏まえて学習内容を十分に分かりながら身に付けること」と示されてきたが、今回の改訂ではこの趣旨を一層明確にするために、各中項目のイの(ア)に、「理解」に向かう学習の過程における考察や表現等を示したものである。

従前も学習内容の構造化や焦点化については示してきたところであるが、今回の改訂では、学習の過程を含めて構造的に示すことによって、大項目、中項目及び各事項のねらいに基づいた学習が展開し、アに示す「知識及び技能を身に付ける」学習と、イに示す「思考力、判断力、表現力等を身に付ける」学習を有機的に結び付けて、課題追究的な学習の実現を図った。また、学習の構造化と学習のねらいを明確にすることによって、学習の際に扱うべき歴史に関わる諸事象の精選を図ることとしたものである。

#### ウ 我が国の歴史の背景となる世界の歴史の扱いの一層の充実

グローバル化が進展する社会の中で、我が国の歴史の大きな流れを理解するために、世界の歴史の扱いについて、一層の充実を図った。

平成20年改訂においても、我が国の歴史に関わる事象に影響を与えた世界の動きについては一層の関連付けを図って学習するように示してきたが、今回の改訂では、高等学校地理歴史科に「歴史総合」が設置されることを受け、我が国の歴史に間接的な影響を与えた世界の歴史についても充実させた。例えば、元寇をユーラシアの変化の中で捉える学習や、ムスリム商人などの役割と世界の結び付きに気付かせる学習など、広い視野から背景を理解できるよう工夫したものである。

#### エ 主権者の育成という観点から、民主政治の来歴や人権思想の広がりなどについての学習の充実

民主政治の来歴や、現代につながる政治制度や人権思想の広がりについての学習の充実を図った。例えば、古代の文明の学習では民主政治の来歴を、近代の学習では政治体制の変化や人権思想の発達や広がりや、現代の学習では、男女普通選挙の確立や日本国憲法の制定などを取り扱うこととした。

#### オ 様々な伝統や文化の学習内容の充実

我が国の様々な伝統や文化について学ぶことは、これまでも歴史的分野で重視されてきたねらいの一つである。今回の改訂においても、歴史的分野の目標の(2)で、「伝統と文化の特色」などを考察すること、目標の(3)で「国家及び社会並びに文化の発展や人々の生活の向上に尽くした歴史上の人物と現在に伝わる文化遺産を尊重しようとする大切さについての自覚などを深め」ることが示されている。内容のAの「(2)身近な地域の歴史」において、具体的な事柄を通して受け継がれてきた伝統や文化への関心を高めることや、各中項目における伝統や文化の特色の理解につながる学習とともに、新たに内容のBの(2)や(3)において、「琉球の文化」や「アイヌの文化」についても触れることとし、学習内容の一層の充実を図った。

### 3 教科書の調査研究

#### (1) 内容

##### ア 調査研究の総括表（調査結果は「別紙1」）

調査研究事項（調査研究の対象）	対象の根拠（目標等）	数値データの単位
a 時代区分別のページ数、割合	歴史・目標（1）	ページ数、%
b 取り上げられている歴史上の人物の数	歴史・目標（3）	人
c 取り上げられている主な文化遺産の数	歴史・目標（3）	個
d 世界の歴史について取り上げている箇所数	歴史・目標（1） 学習指導要領改訂の要点 ウ・エ	箇所
e 身近な地域の歴史（東京に関する歴史的事象）を取り上げている箇所数	歴史・目標（2）（3） 学習指導要領改訂の要点 オ	箇所
f 発展的な内容を取り上げている箇所数	学習指導要領総則	箇所

##### イ 調査項目の具体的な内容（調査結果は「別紙2」）

###### ① 調査項目の具体的な内容の対象とした事項

調査研究事項のb、c、e、fとの関連で、次の事項について具体的に調査研究する。

b 歴史上の人物名（別紙2-1）

c 主な文化遺産（別紙2-2）

e 身近な地域の歴史（東京に関する歴史的事象）を取り上げている内容（別紙2-3）

f 発展的な内容の扱い

＜調査の結果、fについては記載が無いことを確認した。＞

＜その他＞

\*1 我が国の位置と領土をめぐる問題の扱い（別紙2-4）

\*2 国旗・国歌の扱い（別紙2-5）

\*3 神話や伝承を知り、日本文化や伝統に関心をもたせる資料（別紙2-6）

\*4 北朝鮮による拉致問題の扱い（別紙2-7）

\*5 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い（別紙2-8）

\*6 一次エネルギーや再生可能エネルギーの扱い（別紙2-9）

\*7 オリンピック・パラリンピックの扱い（別紙2-10）

###### ② 調査対象事項を設定した理由等

歴史的分野の目標及び中学校学習指導要領解説 社会編 第1章 総説 2 社会科改訂の趣旨及び要点（2）改訂の要点〔歴史的分野〕を基に設定した調査研究の総括表で取り上げた事項の内容を、具体的に調査することにより、各社の方針を明確にする。

- ・ 歴史上の人物や文化遺産について学習する際の留意点として、身近な地域の発展に寄与した人物や、身近な地域の歴史に関わる文化遺産を取り上げるに当たっては、小学校における地域や我が国の歴史に関する学習との関連にも留意することが挙げられており、その扱いについて調査する。（b、c）
- ・ 内容のAの「(2) 身近な地域の歴史」において、具体的な事柄を通して受け継がれてきた伝統や文化への関心を高めることや、各中項目における伝統や文化の特色の理解につながる学習については、これらを取り上げることで歴史上の出来事を具体的な事物や情報を通して理解することができるとともに、それを自らが生活する日常の空間的な広がりの中で実感的に捉えることができる学習の場となることから、その扱いについて調査する。（e）
- ・ 発展的な内容については、学習指導要領第1章総則「第2 教育課程の編成 3 教育課程の編成における共通の事項 (1) 内容等の取扱い イ」において、「学校において特に必要がある場合には、第2章以下に示していない内容を加えて指導することができる。」と示されている。また、(3)「指導計画の作成等に当たっての配慮事項 イ」では、「各教科等及び各学年相互間の関連を図り、系統的、発展的な指導ができるようにすること」と示されている。これらのことから、発展的な内容の扱いの有無、取り上げている内容の具体的な学習の内容について調査

する。(f)

- ・ 我が国の位置と領土をめぐる問題については、学習指導要領に基づき、これらの問題を正しく理解できるようにするため、その扱いについて調査する。(＊1)
- ・ 国旗・国歌については、学習指導要領に基づき、国旗・国歌に対する正しい認識をもたせ、それらを尊重する態度を育てることが大切であることから、その扱いについて調査する。(＊2)
- ・ 神話や伝承を知り、日本文化や伝統に関心をもたせる資料については、学習指導要領の内容の取扱いに「神話・伝承などの学習を通して、当時の人々の信仰やものの見方などに気付かせる」とあることから、生徒に興味や関心をもたせることのできる資料について調査する。(＊3)
- ・ 東京都教育委員会は、教育目標の基本方針1として「人権尊重の精神と社会貢献の精神の育成」を掲げ人権教育を推進してきた観点から、児童・生徒が人権尊重の理念を正しく理解できるようにするため、北朝鮮による拉致問題の扱いについて調査する。(＊4)
- ・ 東京都では、自然災害における被害を最小化し、首都機能の迅速な復旧を図る総合的なリスクマネジメント方策の確立が喫緊の課題であり、防災教育の普及等により地域の防災力の向上が重要であることから、防災や自然災害における関係機関の役割等について考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、防災や自然災害時における関係機関の役割等の扱いについて調査する。(＊5)
- ・ 学習指導要領に基づき、環境にかかる諸問題を考察させることを通じて、これらの問題を正しく理解できるようにするため、一次エネルギーや再生可能エネルギーの扱いについて調査する。(＊6)
- ・ 東京都教育委員会教育目標の基本方針2・3に基づき、文化・スポーツに親しみ、国際社会に貢献できる日本人を育成するという観点から、オリンピック・パラリンピックの扱いについて調査する。(＊7)

### ③ 調査研究の方法

- b 歴史上の人物名を抽出し、時代区分により整理する。
- c 主な文化遺産(国宝、重要文化財、世界遺産等、国家や社会の発展を象徴する文化遺産)を抽出し、時代区分により分類整理する。
- e 東京に関する歴史的事象を取り上げている内容を調査する。
- f 発展的な内容については、義務教育諸学校教科用図書検定基準第2章2(16)に基づき、発展的な学習内容以外のものと区別して、発展的な学習内容であることが明示されているものを整理する。

<その他>

- \*1 我が国の位置と領土をめぐる問題の扱いについて、北方領土、竹島、尖閣諸島等に関する項目及び記述の概要を調査する。
- \*2 国旗・国歌について取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- \*3 神話や伝承について取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- \*4 北朝鮮による拉致問題について取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- \*5 防災や、自然災害時における関係機関の役割等について取り上げている項目及び記述の内容を調査する。
- \*6 一次エネルギー及び再生可能エネルギーについて取り上げている項目及び記述の概要を調査する。
- \*7 オリンピック・パラリンピックについて取り上げている項目及び記述の概要を調査する。

### (2) 構成上の工夫(調査結果は「別紙3」)

以下の観点により、箇条書きで記述する。

- ア 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫
- イ ユニバーサルデザインの視点
- ウ デジタルコンテンツの扱い

「別紙1」【(1) 内容 ア 調査研究の総括表】(中学校 社会 歴史的分野)

項目	a 時代区分別のページ数、割合						b 取り上げられている歴史上の人物の数						c 取り上げられている主な文化遺産の数						d 世界の歴史について取り上げている箇所数	e 身近な地域の歴史(東京に関する歴史的事象)を取り上げている箇所数						f 発展的な内容を取り上げている箇所数
	古代までの日本	中世の日本	近世の日本	近代の日本と世界	現代の日本と世界	計	古代までの日本	中世の日本	近世の日本	近代の日本と世界	現代の日本と世界	計	古代までの日本	中世の日本	近世の日本	近代の日本と世界	現代の日本と世界	計		古代までの日本	中世の日本	近世の日本	近代の日本と世界	現代の日本と世界	計	
発行者																										
自由	50 18.5%	36 13.3%	44 16.3%	106 39.3%	34 12.6%	270	117	144	184	219	109	773	42	30	19	5	2	98	59	2	2	27	45	16	92	0

a 「時代区分別のページ数、割合」については、各社の教科書の目次から各時代区分のページ数を算出した。

b 「取り上げられている歴史上の人物の数」については、時代区分別に、取り上げられている歴史上の人物名を数えた。

c 「取り上げられている主な文化遺産の数」については、時代区分別に、国宝、重要文化財、世界文化遺産等、国家や社会の発展を象徴する文化遺産の数を数えた。

d 「世界の歴史について取り上げている箇所数」については、世界の歴史について記述している箇所数を数えた。

e 「身近な地域の歴史(東京に関する歴史的事象)を取り上げている箇所数」については、時代区分別に、現在の東京都域内で起こった歴史的な出来事や東京に残る文化財について記述している箇所数を数えた。

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 b 歴史上の人物名 古代まで】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	人物名 古代まで							
自由	相澤忠洋	アルキメデス	イザナミの命	百済王の世子	高田根麻呂	中臣氏	大伴旅人	小野小町
	ヘロドトス	カエサル	アマテラスオオミカミ (天照大神)	広開土王	高向玄理	藤原氏	桓武天皇	在原業平
	クフ王	ブルータス	ツクヨミの命	聖明王	粟田真人	大友皇子	坂上田村麻呂	鳥羽僧正
	孔子	イエス	スサノオの命	蘇我氏	山上憶良	持統天皇	明治天皇	源信
	始皇帝	ガブリエル	オオクニヌシの神 (大国主神)	物部氏	阿倍仲麻呂	マルコポーロ	アテルイ	空也
	孟子	アラー	ニニギの命	欽明天皇	吉備真備	太宗	藤原道長	奥州藤原氏
	荀子	ムハンマド	ホオリの命	蘇我馬子	玄昉	聖武天皇	藤原頼通	一条天皇
	老子	釈迦	ウガヤフキアエズの命	推古天皇	藤原清河	光明皇后	紀貫之	彰子
	莊子	エホバ	カムヤマトイワレヒコの命 (神武天皇)	小野妹子	最澄	行基	藤原道綱の母	ボッカチオ
	商鞅	卑弥呼	タケミカヅチの神 (建御雷神)	煬帝	空海	鞍作鳥 (止利仏師)	清少納言	セルバンテス
	韓非	光武帝	美智子皇后 (当時)	天武天皇 (大海人皇子)	円仁	鑑真	紫式部	和泉式部
	李斯	漢委奴国王	珍	蘇我蝦夷	菅原道真	柿本人麻呂	赤染衛門	定子
	墨子	仁徳天皇 (讃)	濟	蘇我入鹿	中大兄皇子 (天智天皇)	大伴家持	菅原孝標の女	
	孫子	聖徳太子 (厩戸皇子)	興	山背大兄皇子	中臣鎌足 (藤原鎌足)	額田王	後白河法皇	
	呉子	イザナキの命	武 (雄略天皇・ワカタケル大王)	犬上御田鍬	皇極天皇	山部赤人	醍醐天皇	

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 b 歴史上の人物名 中世】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	人物名 中世									
自由	源氏	源義経	北条時宗	快慶	赤松	島津	毛利元就	長宗我部	真田氏(松代藩)	藤原公清
	平氏	源範頼	宗助国	無著	佐々木	李成桂	北条早雲	毛利	観阿弥	三河鈴木
	藤原氏	奥州藤原氏	後醍醐天皇	世親	武田	李氏	今川義元	竜造寺	世阿弥	渡辺綱
	後三条天皇	平忠盛	護良親王	重源	大内	宗氏	大友義鎮	相良	雪舟	嵯峨源氏
	白河天皇	池禅尼	楠木正成	藤原定家	今川	尚氏	島津貴久	大内義隆	宗祇	源頼光
	<small>後白河天皇(後白河上皇)</small>	北条政子	足利尊氏	西行	菊池・阿蘇	千利休	伊達	陶晴賢	エリザベス女王	酒吞童子
	崇徳上皇	北条氏	新田義貞	鴨長明	佐竹	足利義政	北条	輝元	上杉憲実	渡辺氏
	平清盛	源実朝	源信	兼好法師	千葉	義視	朝倉	豊臣秀吉	亀山天皇	渡部氏
	源義朝	後鳥羽上皇	空也	足利義満	武田	義尚	斎藤	徳川家康	後深草天皇	源義清
	持統天皇	北条泰時	法然	足利氏	今川	細川勝元	織田	伊達政宗	光明天皇	
	慈円	北条時頼	親鸞	上杉	土岐	山名持豊(宗全)	浅井	北条氏房	直義	
	安德天皇	佐野常世	日蓮	京極	畠山	蓮如	六角	信繁	後亀山天皇	
	以仁王	一遍	栄西	斯波	細川	織田信長	三好	山本菅助(勘助)	後小松天皇	
	源義仲	<small>チンギス・ハン(テムジン)</small>	道元	富樫	大友	武田信玄	尼子	武田勝頼	藤原秀郷	
	源頼朝	フビライ・ハン	運慶	山名	一色	上杉謙信	小早川	上杉景勝	平将門	



「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 b 歴史上の人物名 近世】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	人物名 近世									
自由	ルター	武田勝頼	カブラル	松平 (山形)	松平 (福井)	有馬 (久留米)	俵屋宗達	杉田玄白	小林一茶	服部家
	カルバン	豊臣秀吉 (羽柴秀吉)	ヴァリニャーノ	酒井 (庄内)	戸田 (大垣)	黒田 (福岡)	尾形光琳	前野良沢	与謝蕪村	滝沢馬琴
	レオナルド・ダ・ヴィンチ	明智光秀	フロイス	丹羽 (二本松)	井伊 (彦根)	細川 (熊本)	菱川師宣	華岡青洲	ラクスマン	クロード・モネ
	ミケランジェロ	毛利氏	高山右近	上杉 (米沢)	藤堂 (安濃津)	鍋島 (佐賀)	林羅山	平賀源内	大黒屋光太夫	ピサント・ヴァン・ゴッホ
	コロンプス	秀次	ガスパール・コエリヨ	本多 (白河)	酒井 (小浜)	立花 (柳河)	徳川光圀	最上徳内	レザノフ	
	バスコ・ダ・ガマ	徳川家康	狩野永徳	松平 (村上)	本多 (郡山)	宗 (府中)	中江藤樹	広瀬淡窓	近藤重蔵	
	マゼラン	毛利輝元	千利休	保科 (会津)	徳川 (和歌山)	島津 (鹿児島)	山鹿素行	太安万侶	間宮林蔵	
	コルテス	島津義久	池坊専好	徳川 (水戸)	池田 (鳥取)	山田長政	伊藤仁斎	賀茂真淵	ゴルドン	
	ピサロ	伊達政宗	池田輝政	奥平 (宇都宮)	榊原 (姫路)	松倉勝家	荻生徂徠	上田秋成	ペリー	
	種子島氏	北条氏政	出雲阿国	土井 (古河)	蜂須賀 (徳島)	天草四郎時貞	関孝和	高橋至時	エカテリーナ女帝	
	フランシスコ・ザビエル	北条氏直	上杉謙信	阿部 (岩槻)	池田 (岡山)	志筑忠雄	緒方洪庵	田沼意次	林子平	
	ヤジロー (弥次郎)	長宗我部元親	近松門左衛門	徳川 (館林)	松平 (高松)	ケンペル	シーボルト	徳川家斉	会沢正志斎	
	大村氏	加藤清正	千家	酒井 (前橋)	松平 (松江)	イエス	吉田松陰	松平定信	一橋慶喜	
	中浦ジュリアン	小西行長	石田三成	松平 (高田)	水野 (福山)	尚氏	大村益次郎	水野忠邦	高野長英	
	原マルチノ	李舜臣	秀頼	稲葉 (小田原)	山内 (高知)	シャクシャイン	橋本左内	大塩平八郎	渡辺華山	
	伊東マンショ	豊臣家	徳川家光	真田 (松代)	浅野 (広島)	徳川綱吉	福沢諭吉	葛飾北斎	吉良上野介	
	千々石ミゲル	李氏	徳川氏	徳川 (甲府)	松平 (松山)	家宣	伊能忠敬	喜多川歌麿	浅野内匠頭	
	織田信長	フェリペ2世	南部 (盛岡)	前田 (富山)	伊達 (宇和島)	新井白石	石田梅岩	東洲斎写楽	大石内蔵助	
	今川義元	トルレス	佐竹 (秋田)	前田 (金沢)	毛利 (萩)	井原西鶴	本居宣長	歌川広重	二宮尊徳 (金次郎)	
	足利義昭	オルガンチーノ	伊達 (仙台)	徳川 (名古屋)	小笠原 (小倉)	松尾芭蕉	徳川吉宗	十返舎一九	二宮家	

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 b 歴史上の人物名 近代】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	人物名 近代											
自由	クロムウェル	阿部正弘	松平容保	イザベラ・バード	元田永孚	ムスタファー・カーミル	二葉亭四迷	黒田清輝	浜口雄幸	ジョン・マクマリー	汪兆銘	
	ジョージ・ワシントン	水野忠邦	後鳥羽上皇	山口尚芳	金玉均	シーラージー	尾崎紅葉	藤島武二	後藤新平	張学良	ワンワイタヤークーン	
	ロック	ハリス	後醍醐天皇	津田梅子	李鴻章	アーノルド・トインビー	森鷗外	高村光雲	柳田国男	斎藤実	ホセ・ラウレル	
	モンテスキュー	井伊直弼	三条実美	西郷従道	正岡子規	ネルー	樋口一葉	滝廉太郎	志賀直哉	岡田啓介	スバス・チャンドラ・ボース	
	ルソー	徳川斉昭	グリフィス	大山巖	桂太郎	ガンジー	長岡半太郎	渋沢敬三	武者小路実篤	広田弘毅	米川琴	
	ルイ14世	吉田松陰	大隈重信	東郷平八郎	加藤高明	溥儀	仁科芳雄	宮本常一	谷崎潤一郎	リットン	チャーチル	
	ルイ16世	橋本左内	板垣退助	山本権兵衛	加藤高明	ニコライ皇太子 (ニコライ2世)	袁世凱	湯川秀樹	トーマス・グラバー	永井荷風	鈴木貫太郎	トルーマン
	マリー・アントワネット	久坂玄瑞	副島種臣	福沢諭吉	林董	宮崎滔天	高峰譲吉	オーストリアの皇太子	鈴木三重吉	大山	大田実	
	エドモンド・パーク	高杉晋作	山県有朋	井上馨	夏目漱石 (金之助)	渋沢栄一	志賀潔	レーニン	小川未明	船津振一郎	アトリー	
	ナポレオン	木戸孝允 (桂小五郎)	江藤新平	陸奥宗光	柴五郎	浅野総一郎	大森房吉	ウィルソン	大正天皇	斎藤隆夫	阿南惟幾	
	ジョージ3世	西郷隆盛	大木喬任	芥川龍之介	乃木希典	古河市兵衛	木村栄	西園寺公望	裕仁親王 (昭和天皇)	近衛文麿	新渡戸稲造	
	ジョン・ケイ	大久保利通	伊藤博文	三島由紀夫	ステッセル	大倉喜八郎	鈴木梅太郎	ケマル・アタチュルク	フランクリン・ルーズベルト	尾崎秀実	ベルクソン	
	ハーグリーブス	坂本龍馬	李氏	小村寿太郎	秋山好古	篠田直方	コッホ	吉野作造	若槻礼次郎	ハル	スカルノ	
	ワット	後藤象二郎	小林虎三郎	川上音二郎	秋山真之	川崎正蔵	島崎藤村	原敬	スターリン	樋口季一郎	ハッタ	
	クロンプトン	徳川慶喜	佐久間象山	ミル	金子堅太郎	田中正造	与謝野晶子	尾崎行雄	ヒトラー	東条英機	スティルマン	
	スティブンソン	孝明天皇	尚氏	植木枝盛	セオドア・ルーズベルト	片山潜	石川啄木	犬養毅	ムッソリーニ	杉原千畝	ククリット・ブラモード	
	マルクス	明治天皇	尚寧王	井上毅	ウィッテ	幸徳秋水	フェノロサ	平塚らいてう	リヒャルト・ゾルゲ	高村光太郎	ジョー・オダネル	
	ピスマルク	岩倉具視	徳川家康	内藤魯一	ヴィルヘルム2世	安部磯雄	岡倉天心	黒田清隆	蔣介石	古川ロッパ	フランシスコ	
	洪秀全	神武天皇	秀忠	千葉卓三郎	久松五勇士	北里柴三郎	横山大観	松方正義	幣原喜重郎	バー・モウ	フーパー	
	ペリー	勝海舟	伊波普猷	天照大神	孫文	野口英世	狩野芳崖	高橋是清	張作霖	張景恵		

「別紙2-1」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 b 歴史上の人物名 現代】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	人物名 現代							
自由	マッカーサー	ケネディ	三木武夫	長嶋茂雄	田中耕一	吉野彰	小泉純一郎	十河信二
	昭和天皇	ニール・アームストロング	福田赳夫	王貞治	南部陽一郎	明仁親王(現上皇)	安倍晋三	島安次郎
	東条英機	アイゼンハワー	大平正芳	大鵬	小林誠	ゴルバチョフ	福田康夫	島秀雄
	パル	池田勇人	鈴木善幸	松本清張	益川敏英	ブッシュ	麻生太郎	トランプ
	トルーマン	佐藤栄作	中曽根康弘	司馬遼太郎	下村脩	エリツィン	鳩山由紀夫	
	毛沢東	香淳皇后	竹下登	手塚治虫	鈴木章	細川護熙	菅直人	
	蔣介石	古橋広之進	川端康成	宮崎駿	根岸英一	皇后(現同上皇后)	野田佳彦	
	吉田茂	橋爪四郎	谷崎潤一郎	朝永振一郎	山中伸弥	宇野宗佑	金	
	李承晩	湯川秀樹	三島由紀夫	江崎玲於奈	赤崎勇	海部俊樹	ダライ・ラマ14世	
	鳩山一郎	フレッド・ワダ	小林秀雄	福井謙一	天野浩	宮澤喜一	横田めぐみ	
	スターリン	アベベ	小津安二郎	利根川進	中村修二	羽田孜	金正日	
	チャーチル	チャスラフスカ	黒澤明	大江健三郎	梶田隆章	村山富市	皇太子(第126代天皇)	
	ニクソン	フルシチョフ	美空ひばり	白川英樹	大村智	橋本龍太郎	フセイン	
	岸信介	田中角栄	ザ・ビートルズ	野依良治	大隅良典	小淵恵三	八田與一	
	ユーリー・ガガーリン	周恩来	力道山	小柴昌俊	本庶佑	森喜朗	遠藤未希	

「別紙2-2」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主な文化遺産 古代まで】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	主な文化遺産 古代まで			
自由	ラスコーの壁画	縄文ポシェット	稲荷山古墳鉄剣	中尊寺金色堂
	ジググラト	遮光器土偶	「日本書紀」の写本	源氏物語絵巻
	ピラミッド	合掌土偶	平城京	東大寺金堂
	スフィンクス	数を表す土版	長安の城壁跡	平等院鳳凰堂
	インダス文明の都市の跡	銅剣	法隆寺の五重塔	雲中供養菩薩
	殷墟	銅矛	釈迦三尊像	紀伊山地の霊場と参詣道
	殷の時代の甲骨文字	銅鐸	百済観音像	古都京都の文化財
	万里の長城	「漢委奴国王」の金印	廬舎那仏像	高句麗の広開土王碑
	ローマのコロッセオ	仁徳天皇陵(大仙古墳)	正倉院	鑑真和上坐像
	ローマの公衆浴場	埴輪(鉄のよろいを着た武人)	月光菩薩像	
	土偶(「縄文の女神」)	出雲大社	紫式部日記絵詞	

「別紙2-2」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主な文化遺産 中世】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	主な文化遺産 中世		
自由	平治物語絵巻	重源上人坐像	石山寺縁起絵巻
	厳島神社	慕帰絵	真如堂縁起絵巻(応仁の乱)
	平清盛(坐像)	後醍醐天皇(肖像画)	金閣
	壇ノ浦の戦い	洛中洛外図屏風	銀閣
	源頼朝と伝えられている肖像画	足利義満(肖像画)	能(能楽)
	一遍上人絵伝	真如堂縁起絵巻(遣明船)	石庭(龍安寺)
	法然(肖像画)	紅型	書院造 東求堂同仁齋
	親鸞(肖像画)	道南十二館と発掘された銭	秋冬山水図
	法然上人行状絵図	月次風俗図屏風	琉球王国のグスク及び関連遺産群
	金剛力士像	職人尽絵	石見銀山遺跡とその文化的景観

「別紙2-2」【(1) 内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主な文化遺産 近世】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	主な文化遺産 近世	
自由	サンピエトロ大聖堂 エルサレムの旧市街地と城壁群 フランシスコ・ザビエル(肖像画) 南蛮屏風 織田信長(肖像画) 豊臣秀吉(肖像画) 大坂夏の陣図屏風 茶室「待庵」 姫路城 洛中洛外図屏風	踏み絵 朝鮮通信使に関する記録 燕子花図屏風(右隻) 寺子屋のようす(一掃百態) 弘道館 本居宣長(肖像画) 大日本沿海輿地全図 伊能忠敬(肖像画) 白川郷・五箇山の合掌造り集落

「別紙2-2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主な文化遺産 近代】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	主な文化遺産 近代
自由	富岡製糸場 八幡製鉄所 悲母観音 明治日本の産業革命遺産 製鉄・鉄鋼、造船、石炭産業 万年時計

「別紙2-2」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 c 主な文化遺産 現代】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	主な文化遺産 現代
自由	原爆ドーム 「和食」



「別紙2-3」【(1)内容 イ 調査項目の具体的な内容 e 身近な地域の歴史(東京に関する歴史的事象)を取り上げている内容】(中学校 社会 歴史的分野)

発行者	古代まで	中世	近世	近代	現代	
自由	黒曜石分布図 弥生土器	室町時代の各地の特産品 日本人の名字	出雲阿国と歌舞伎 江戸の町の開拓 江戸幕府の開府 参勤交代の制度 江戸城 江戸初期の主な大名の配置 鎖国日本の4つの窓口 湯島聖堂 城下町の建設 日本橋を起点とする五街道 江戸の繁栄 菱垣廻船や樽廻船による輸送 江戸時代の交通路と都市および各地の特産品 寺子屋の様子 目安箱の設置 町火消し 町人たちの狂歌・落首 化政文化 欧米諸国の船が目撃された件数 赤穂浪士と武士の忠義 エコロジー都市 江戸 「亀戸梅屋敷」 歩いてみよう! 江戸の町 「江戸八景 日本橋の晴嵐」 「東都名所 高輪廿六夜待遊興之図」 五街道図 四つの窓口	ペリー来航の経路 台場の建設 桜田門外の変 江戸城無血開城 彰義隊 首都・東京の誕生 東京に入る天皇 廃藩置県の布告 廃藩置県による新しい府県 鎮台の設置 地券 小笠原諸島の領有 新橋-横浜間の鉄道開通 文明開化 新橋汐留ステーション 市中にあふれる文明開化「東京繁栄車往來の図」 鹿鳴館 日本帝国憲法<五日市憲法> 大日本帝国憲法の発布 日比谷焼き打ち事件 中国同盟会 東海道線全線開通 官営模範工場 鉄道網の発達 ガラスの普及 東京大学 東京美術学校(現在の東京芸術大学)	東京養育院 幕末に起きた主な出来事の地図 護憲運動(国会議事堂におしよせた人々) 関東大震災 都心の被災状況 後藤新平の東京復興 都市の生活 三越開店のポスター 地下鉄開通のポスター バスガール 五・一五事件 二・二六事件 大東亜会議 学徒出陣 東京大空襲 疎開児童と東京大空襲 玉音放送 大東亜戦争の主な戦闘を時間順に示した地図	1945(昭和20)年の廃墟の東京 2012(平成24)年の東京 アメリカ軍による直接統治(小笠原諸島) 東京裁判(極東国際軍事裁判) 東京裁判で判決を聞く東条英機元首相 占領下の検閲と東京裁判 サンフランシスコ条約(アメリカの統治下におかれた小笠原諸島) 講和条約成立を祝う 日米安保条約改定に反対して国会を取りまくデモ隊 上野駅に着いた集団就職の生徒たち 東京オリンピック 水泳ニッポンと1964年の東京五輪 ビートルズの来日 昭和天皇崩御 東海道新幹線開通 東京駅で行われた東海道新幹線の開通式(1964年10月1日)

発行者	北方領土に関する記述の概要	竹島に関する記述の概要	尖閣諸島に関する記述の概要	その他(領土の範囲等)
自由	<p>【地図】 欧米諸国の船が目撃された件数 (P138)</p> <p>【本文】 その後、樺太や択捉島にある日本人の居留地を襲撃し日本人を殺傷しました。この報告が届くと、国内ではロシアに対する危機感が高まりました。(P138)</p> <p>【本文】 1855年、幕府はロシアと日露和親条約を結び、択捉島と得撫島の間を国境と決めました。(P172)</p> <p>【地図】 近隣諸国との国境画定 近代の日本の領土の範囲は、明治時代までに決まりました。(P172)</p> <p>樺太・千島交換条約 歯舞、色丹、国後、択捉の北方4島は、この交換条約以前から日本領として確定していたことがわかります。(P172)</p> <p>【本文】 終戦直後、ソ連は北方領土の国後・択捉島などを不法占領したため、日ソ間では平和条約を締結できませんでした。(P262)</p> <p>【本文】 ソ連は北方4島のうち、歯舞、色丹の2島だけ返還するとの姿勢を示しました。しかし日本は国後、択捉両島も日本固有の領土だとし、2島だけの返還を拒否しました。日ソ両国は翌1956(昭和31)年10月、領土問題を棚上げにした形で日ソ共同宣言を発表、国交を正常化させました。国交正常化により、日本はソ連が反対していた国連への加盟を果たし、長期抑留者も帰国できました。しかし領土問題はその後、ソ連が2島返還も取り下げると、膠着したままとなり、日ソ間でいまだに平和条約が結べないという異常な状態が続いています。(P263)</p> <p>【コラム】 北方領土 日本はサンフランシスコ講和条約で千島列島の領有を放棄しました。しかし国後島、択捉島、色丹島、歯舞群島の北方4島は、その千島列島に含まれず、日本が一度も領有を放棄したことのない固有の領土であるというのが日本政府の立場です。従って、現在の北方領土は戦後、ソ連によって不法占拠されているとし、返還を求めています。北方領土は第二次大戦後日本で使われるようになった言葉で、択捉、国後、歯舞群島、色丹島の北方4島の範囲をさします。(P263)</p>	<p>【地図】 近隣諸国との国境画定 (P172)</p> <p>【コラム】 竹島は日本海に浮かぶ2つの小さな島で、江戸時代からの漁場でした。江戸幕府は17世紀の半ばには領有権を確立しました。1905年、日本政府は竹島を日本の領土として島根県に編入しました。(P173)</p> <p>【本文】 ラインの内側には、日本の固有の領土である島根県の竹島も含まれており、韓国は一方向的に自国領だと主張し、警備隊を置きました。1965(昭和40)年、日韓基本条約が結ばれた後も韓国による不法占拠は続いています。(P263)</p> <p>【写真】 韓国に不法占拠されたままの竹島 (P263)</p> <p>【本文】 韓国は…、竹島の不法占拠を続けるなど反日姿勢を強め、…。(P279)</p>	<p>【地図】 近隣諸国との国境画定 (P172)</p> <p>【コラム】 尖閣諸島は沖縄県の石垣島から約170km離れた8つの小さな島からなります。日本政府は10年あまりの調査によってこの地がどの国にも属さないことを確認した上で、1895年、日本の領土として沖縄県に編入しました。(P173)</p> <p>【本文】 沖縄県の尖閣諸島の領有権を不当に主張し、頻繁に公船や漁船、航空機を日本の領海、領空に侵入させています。これに対し日本は「尖閣は日本固有の領土であり、領土問題は存在しない」との立場をとっています。(P278)</p> <p>【注】 尖閣諸島は、1885(明治18)年からの調査に基づき、1895(明治28)年、どの国にも属していないことを確認し、日本政府が閣議決定により日本の領土に編入しました。最盛期には200人以上の日本人が、カツオ節製造などのため居住していました。戦後アメリカの施政下にありましたが、1972(昭和47)年、沖縄返還にともない日本に戻りました。(P278)</p>	<p>【本文】 太平洋方面では、1876(明治9)年、日本は小笠原諸島を日本領とし、各国の承認を得ました。小笠原諸島にはイギリス船が自国の国旗を立てていましたが、アメリカが反対しました。(P172~173)</p> <p>【地図】 近隣諸国との国境画定 (P172)</p>

「別紙 2 - 5」 【 国旗・国歌の扱い 】 （中学校 社会 歴史的分野）

発行者	「教材名」【掲載方法】 記述の概要(掲載ページ)
自由	<p>「明治国家を背負った伊藤博文」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】感銘与えた「日の丸演説」 国旗日の丸を指し「あの赤い丸は今まさに昇ろうとする太陽を象徴し、日本が欧米文明のただ中に向かって躍進する印であります」と述べ、大きな拍手をあげました。「日の丸演説」と言われています。(P197)</li> <li>「講和条約成立を祝う」</li> <li>・【写真】東京の銀座通りに日の丸の旗が掲げられました。(P262)</li> </ul>

「別紙2-6」【 神話や伝承を知り、日本文化や伝統に関心をもたせる資料 】（中学校 社会 歴史的分野）

発行者	「教材名」【掲載方法】 記述の概要（掲載ページ）
自由	<p>「皇紀」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・以上のほか、日本には皇紀があります。日本書紀に書かれた初代・神武天皇が即位したとされる伝説上の年を元年とする年の数え方で、皇紀元年は西暦紀元前660年にあたります。（P10）</li> </ul> <p>「神話が語る国の始まり」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】「『古事記』『日本書紀』に書かれた神話・伝承」、「イザナキ・イザナミとアマテラスの誕生」、「オオクニヌシの神と出雲神話」、「天孫降臨と神武天皇」を見出しとして、神話・伝承による日本の国の成り立ちを紹介している。（P38～39）</li> <li>・【写真】「天照大神を祀る伊勢神宮の内宮正宮」（P38）</li> <li>・【資料】「スサノオの命の乱暴に怒って岩屋にこもった天照大神をよび出そうとする神々」（P38）、「日本サッカー協会のシンボルマーク」（P39）、「神話による神々の系図」（P39）、「神武東征伝承」（P39）</li> <li>・【コラム】「神道とは何か」と題して、日本にあった信仰としての神道を紹介している。（P38）</li> </ul> <p>「国譲り神話と古代人」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】「大国主神の『国譲り』」、「古代日本人のものの考え方」、「姿をあらわす巨大空中神殿」について紹介している。（P40～41）</li> <li>・【写真】「出雲大社の伝承に基づく復元模型」（P40）、「出雲大社」（P41）、「出雲の国から出土した銅鐸」（P41）</li> <li>・【資料】「オオクニヌシの神」（P40）</li> </ul> <p>「日本の天皇と中国の皇帝」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】「日本の天皇と天の思想」の項目の中で、日本における「天」の思想や「天皇」という称号の意味、日本の歴史における天皇と政治の関係などについて説明している。（P53）</li> </ul> <p>「記紀の完成」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】712年に『古事記』が完成し、全3巻の中に、民族の神話と歴史がすじみち立った物語としてまとめられました。次いで、720年には『日本書紀』全30巻が完成し、日本国家の正史として、歴代の天皇の系譜とその事績が年代順に詳細に記述されました。（P54）</li> </ul>

「別紙2-7」 【 北朝鮮による拉致問題の扱い 】 (中学校 社会 歴史的分野)

発行者	「教材名」【掲載方法】 記述の概要 (掲載ページ)
自由	<p>「朝鮮半島と日本」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】北朝鮮はまた1970年代から日本人を自国に拉致し、体制強化に利用しました(日本人拉致)。日本政府は3度にわたり拉致被害者と家族の一部を帰国させましたが、なお多くの日本人同胞が不当に拘束されています。(P278~279)</li> <li>・【コラム】「北朝鮮による日本人拉致」 1970年代から80年代にかけて、日本人が忽然と姿を消して行方不明になる事件が相次ぎました。新潟県では1977(昭和52)年、中学生の横田めぐみさんが帰宅途中に誘拐されました。 1987(昭和62)年に大韓航空機爆破事件で逮捕された北朝鮮の工作員(スパイ)の女性は「拉致された(めぐみさんとは別の)女性に日本語を教わった」と証言し、真相が明るみに出ました。 北朝鮮は拉致を否定してきましたが、国交回復を協議する2002年9月17日の日朝首脳会談で、北の指導者・金正日はついに拉致を認め、5人の被害者が日本に帰国しました。しかし、めぐみさんを含む100人を超える日本人が今も拉致されていると疑われており、拉致問題は解決していません。(P279)</li> <li>・【写真】北朝鮮に拉致された人たちの帰国(2002年10月15日)(P279)</li> </ul>

「別紙2-8」【 防災や、自然災害時における関係機関の役割等の扱い 】（中学校 社会 歴史的分野）

発行者	防災や自然災害時における関係機関 (国・地方公共団体・自衛隊)の役割等の扱い	東日本大震災の扱い	その他の自然災害の扱い
自由	<p>【本文】 関東大震災の結果、日本の経済は大きな打撃を受けましたが、地震の多い日本で近代都市をつくるために得た教訓は多く、耐震設計や都市防災の研究が始まりました。(P221)</p> <p>【写真】 都心の被災状況 東京都心は壊滅的な打撃を受けましたが、その後、世界最大規模の帝都復興計画が練られました。今日の主要な幹線道路は、このときに設計したものです。(P221)</p> <p>【コラム】 後藤新平の東京復興 後藤新平(1857～1929)岩手県出身。東京市長を経て1923年に帝都復興総裁となり、関東大震災後の東京復興のため、大胆な都市計画を立案し、その推進につとめました。(P221)</p> <p>【本文】 平成時代30年間の歴代の政権は災害からの復興につとめて、全国に高潮を防ぐ防潮堤を整備するなど、災害に強い強靱な国土づくりを進めました。(P277)</p> <p>【コラム】 災害出動した自衛隊員や警察官の献身的なはたらきも特筆すべきものでした。天皇陛下(現上皇陛下)は、地震発生の5日後に国民へのメッセージを出され、次のように述べられました。「自衛隊、警察、消防、海上保安庁をはじめとする国や地方自治体の人々、救援のために諸外国から来日した人々、国内の様々な救援組織に属する人々が、余震のつづく危険な状況の中で、日夜救援活動を進めている努力に感謝し、その労を深くねぎらいたく思います」(P282)</p>	<p>【本文】 「2011(平成23)年3月11日は何があった日ですか？」と聞かれると、皆さんは「東日本大震災が起きた日」と答えることができますと思います。日本中が大きな衝撃を受け、悲しみにくれた日だからです。(P9)</p> <p>【本文】 2011(平成23)年3月11日には、東北地方でマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、想像を絶する大津波が、東北から関東にかけての太平洋岸をのみこみました(東日本大震災)。2万人近くが犠牲となり、原子力発電所の震災に伴う事故で、多くの人が避難生活を強いられました。(P277)</p> <p>【写真】 東日本大震災(2011年3月11日) 日本周辺で観測史上最大の地震。震源域は三陸沖の南北500km、東西200kmに及ぶ巨大なものでした。地震の後に押し寄せた大津波は人と家屋をのみ込み、大きな船をも押し流しました。(P277)</p> <p>【コラム】 「世界から絶賛された冷静沈着さ」、「自己犠牲の精神が命を救う」、「歴史に育まれた日本文化の特質」を見出しとして、東日本大震災における日本人の様子などについて記述している。(P282)</p> <p>【写真】 遠藤未希さんの自己犠牲を報じた新聞記事(「河北新報」2011年4月12日)と、津波被害を受けた直後の南三陸町防災庁舎(P282)</p>	<p>【本文】 奈良時代には、…災害がおこりました。(P56)</p> <p>【本文】 平安初期には地震・干ばつ・飢饉が起き、…。(P60)</p> <p>【本文】 地方では天災がたてつづけにおこりました。(P61)</p> <p>【コラム】信玄堤 釜無川と御勅使川の洪水から甲府盆地の平野部を守る施設の一つが信玄堤です。先人の水との戦いの歴史がわかります。(P93)</p> <p>【コラム】大名たちの治水 伊達政宗の貞山堀(宮城県)、北条氏房の荒川堰(埼玉県)、豊臣秀吉の太閤堤(京都府)が紹介されている。(P93)</p> <p>【本文】 1923(大正12)年9月1日、関東地方で大地震がおこりました。東京や横浜など各地で発生した火災で、多数の民家や、重要な建造物、文化施設などが消失し、死者・行方不明者は10万5000人に達しました(関東大震災)。(P221)</p> <p>【本文】 平成になってからの日本列島は2回、歴史的大地震にみまわれました。1995(平成7)年1月17日早朝、関西地方を襲った阪神・淡路大震災では、各所で火災が発生し、6千人以上の人が亡くなりました。(P277)</p> <p>【本文】 地震だけではなくありません。日本は戦後も、台風や大雨、豪雪、火山の爆発などさまざまな自然災害の被害を受けました。1959(昭和34)年9月の伊勢湾台風では、愛知県を中心に高潮などにより死者・行方不明が5098人に上りました。(P277)</p> <p>【資料】 戦後日本を襲った主な自然災害(P277)</p>

「別紙2-9」 【 一次エネルギーや再生可能エネルギーの扱い 】 （中学校 社会 歴史的分野）

発行者	一次エネルギーや再生可能エネルギーについて取り上げている項目	そのうち、原子力発電についての記述の概要
自由	「イギリスの産業革命」(P154) 「日本の近代産業発祥の地 長崎」(P206～207) 「パレンバン降下作戦」(P239) 「石油危機とその克服」(P271) 「湾岸戦争と日本の国際貢献」(P276) 「自然災害とその克服」(P277)	【本文】原子力発電所の震災に伴う事故で、多くの人が避難生活を強いられました。(P277)

「別紙2-10」 【 オリンピック・パラリンピックの扱い 】 (中学校 社会 歴史的分野)

発行者	「教材名」【掲載方法】 記述の概要(掲載ページ)
自由	<p>「日本の地位向上と外交」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】1964(昭和39)年には東京オリンピックが、…アジアで初めて開かれました。(P266～267)</li> </ul> <p>「水泳ニッポンと1964年の東京五輪」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】(P269)</li> </ul> <p>「平成から令和へ」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【本文】日本は2020年の東京オリンピック・パラリンピックの誘致に成功し、国民に大きな希望と誇りをもたらしました。(P279)</li> </ul> <p>「新幹線の歴史を調べよう」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【コラム】東海道新幹線の工事が始まったのは1959(昭和34)年4月のことです。それから5年半ほどのちの1964年10月1日、東京～新大阪間を走り始めました。前回の東京オリンピック開会式の9日前で、日本中がお祝いムードに包まれました。(P283)</li> </ul>



「別紙3」 【(2) 構成上の工夫】 (中学校 社会 歴史的分野)

発行者	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた工夫	ユニバーサルデザインの視点	デジタルコンテンツの扱い
自由	<ul style="list-style-type: none"> <li>・見開き2ページの末尾に、学習をとおして習得した知識の整理を行うための課題を示している。</li> <li>・「調べ学習のページ」を設定し、生徒の探究を促すよう工夫している。</li> <li>・「復習問題のページ」を設定し、基礎的な用語・知識の定着を図ることができるよう工夫している。</li> <li>・「時代の特徴を考えるページ」を設定し、「歴史用語ミニ辞典」を作成する課題や多様な学習課題を示している。</li> <li>・「対話とまとめ図のページ」を設定し、時代の歴史的事象を構造化したまとめ図を基に時代を大観するための対話を示している。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要語句をゴシック体の太字にしており、生徒にとって読みやすいよう配慮している。</li> <li>・振り仮名を全てゴシック体になっている。</li> </ul> <p>等が示されている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「調べ学習のページ」の「日本人の名字の由来を訪ねてみた」においては、図書館調査とインターネット調査を実施することとし、その際の情報の扱い方の例を示している。</li> </ul>